参考

令和５年度山形県へき地診療所等におけるオンライン診療モデル事業（概要）

１　背景

- オンライン診療は、情報通信技術の発展並びに地域の医療提供体制及び医療ニーズの変化に伴って、近年ますます需要が高まっており、特に交通の便が悪い山間地や離島などにおいて有効な活用方法と考えられている。
- 本県では、全国に先んじて人口減少・高齢化が進行しており、県内どこに住んでいても質の高い医療を享受できるようにする必要があるが、特に、へき地診療所では月数回～週数回しか医師の派遣を受けられないなど、継続した診療日数の確保が課題となっている。

２　事業経緯

- 令和４年度より、村山地域と最上地域において、へき地診療所を受診する患者が、看護師等から診察と情報通信機器の利用介助を受けながら、病院にいる医師からオンライン診療を受けるモデル事業を実施している。
- これまでの取組みにより、医師のへき地診療所への移動の負担が軽減されるとともに、情報通信機器の操作に不慣れな高齢者等でも看護師等の適切なサポートによりオンライン診療による診察等を受けることが可能であること等が分かった。
- **令和５年度は、新たに置賜地域において公立置賜総合病院と飯豊町中津川診療所を繋いだオンライン診療を実施し、経営主体の異なる医療機関間によるオンライン診療について実証を開始し、成果と課題を整理する。**

３　事業内容　※ＮＴＴコミュニケーションズ株式会社東北支社への委託事業

（１）協力医療機関

公立置賜総合病院、飯豊町中津川診療所

※その他、以下地域において令和４年度から継続実施

① 町立真室川病院、釜渕診療所

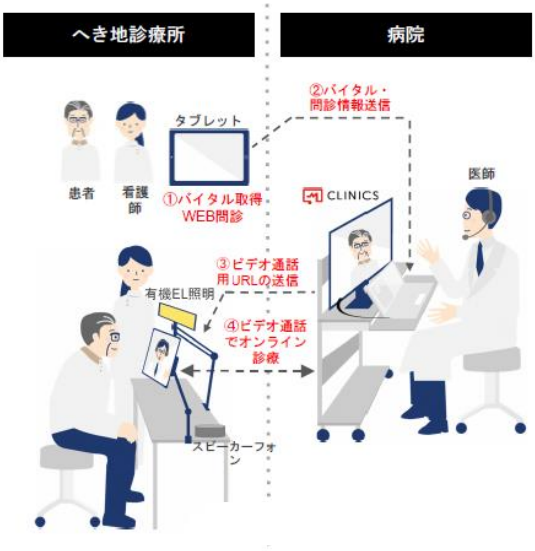
② 西川町立病院、大井沢診療所

（２）対象患者

- 普段からへき地診療所に定期的に通院している患者

（３）方法

- 協力医療機関にオンライン診療に必要な機材やシステムを設置し、通信回線で結ぶ。
- 患者は、普段どおりへき地診療所等に来院する。
- 看護師は、へき地診療所等において、患者の診察と通信機器の利用を補助する。
- 医師は、病院においてオンラインで患者を診察する。
- モデル事業実施後、成果と課題を整理し、県内関係者を集め意見交換会を開催する。



（４）期待される効果

① 患者側

・ 普段どおり診療所等に通うため心理的負担が少ない。

・ 機器の操作は看護師が補助するため、操作の負担もない。

② 医師側

・ 病院で診察できるため、へき地診療所へ移動する負担がない。

・ 有機ＥＬ照明等の利用により、患者の顔色や患部を肉眼に近い形で診ることができる。

以上